

令和2年度 小林市立東方小学校 自己評価及び学校関係者評価書

4段階評価（4：期待どおり 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

学校経営 ビジョン	「高い知性と豊かな心を持ち、心身共に健康で、互いに磨き合い高め合い、たくましく生き抜く児童生徒の育成」を目指し、9年間を見通した東方中学校との一貫教育を基盤に、支援学校との交流の充実も図りながら、本校の歴史や伝統、地域や保護者の思いや願い、児童の実態等を踏まえ、全職員が持てる力を存分に発揮し、主体的・組織的に参画する学校経営を実施する。
--------------	---

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	数値目標	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価				関係者 評価	学校関係者評価のコメント	
				教職員R01	教職員R02	保護者R01	保護者R02			
知育	進んで学びのよくなる考える	1 ICTの効果的な活用	1人1授業の実施(研究授業)	○タブレットPCを活用した「主体的・対話的な深い学び」にむけて授業改善を行ってきた。1人1授業の実践に取り組み、効果的なICT活用について研修を深めるとともに他校へも授業を公開し研究の成果を広げてきた。 ●一人一台のタブレットPC導入に向けてさらに授業での効果的な活用について研究を深めていく。	3.1	2.9	/	/	3.0	○ 新型コロナの訪れにより非常事態宣言の中で、縮小と大変な状態で努力されている。目標100%は無理であるので達成に向けて頑張ってください。 ○ コロナで今までと違う生活の中、家庭も学校も大変だと思います。学校で感染者を出さないように努力されたことと思いが下がります。 ICTを活用した一人1授業の実践がよい。 ○ 家庭学習充実のため家庭との連携を深めるとよい。 ○ 今年度コロナ禍の中で生活パターンが大きく変化し、タブレットPCを活用できる児童は大変恵まれた環境にあると思います。今後の益々の成長を願っています。 ○ 読書への関心が高まっていることは大変よいことだと思います。本を読むことでいろいろな考え方ややり方を学び知り、今後に生かしてほしいと思います。 ○ タブレットを活用した授業が進んでいる様子が伝わってきます。ICT化が不可欠な時代となっている昨今。効果的なICTという場面で先進的な立場として頑張っている東方小学校で日々学んでいる子ども達にとってもよい影響になっていると思います。
		2 読書指導の推進	読書量前年比プラス(個人)	○「かしの木よみんる会」による読み聞かせや朝の読書の時間、読書月間の取組などを通して、読書への関心が高まっている。図書室の貸出冊数が大幅に増加している。年間一人平均9.3冊に図書室での貸し出しがあった。(総貸出冊数9762冊、昨年度より+1170冊)1月末現在 ●保護者は家庭であまり読書をしていないととらえている。家庭での読書推進に向けて、啓発活動を進めていく。	3.0	2.3	2.8	2.8		
		3 日々の授業の充実と基本的な学習態度の徹底	学力分析と基礎・基本の定着	○ICTを積極的に活用しながら日々の授業の充実に努め、基礎基本の定着を図ってきた。NRTテストでは、昨年度より学校全体として学力が向上している。(昨年比国語1.0、算数0.8up)ほぼ全国平均の結果が出ている。 ●学力調査の結果を分析し、課題解決に向けて重点化した対応策を講じていく必要がある。	3.0	3.1	3.6	3.7		
		4 個に応じたきめ細かな指導の徹底と家庭学習の充実	個々のレベルアップ	○ICTを効果的に活用することで、個に応じた指導の充実につながった。また、支援を要する児童について、特別支援学級担任が、取り出し指導を行ったり、支援員による授業補助を行ったりした。 ●学力の向上を目指し、家庭学習への充実を図るために、家庭との連携を深めていく。	2.9	2.9	3.4	3.5		
徳育	思いやりのある育	1 道徳科の時間の指導と支援学校等との交流活動の充実	道徳科の時間の充実と交流活動の実践	○道徳科の工夫改善を積み重ね、豊かな道徳性を養ってきた。徳育に関する保護者からの評価も高い。また、支援学校との交流活動(ふれあい活動)は、新型コロナ感染症の影響でほとんど実施できなかった。 ●「考え、議論する道徳」の実現に向けて、多様な指導方法の工夫、改善に取り組む。	2.8	2.9	3.8	3.8	3.3	○ 低学年での徳育が必要な点を考えて努力されている。 ○ いじめ、不登校はないのでしょうか。「行きたくない」という児童は本当に行きたくないのでしょうか。そういう思いをしている心の奥まで見つけ出すことは難しいですね。 支援学校との交流活動ができなかったのは残念。 ○ あいさつは地域の人たちの声かけも必要かと思う。 ○ 東方小、中には、支援学校もあり、素直に手を差し伸べるのができる今の気持ち、行動を生かしてほしいと思います。いじめがないのは、支援学校の存在が大きいのと思います。 ○ いじめや不登校がないということは日頃の学校の努力であると思います。支援学校との交流についてはかけがえのない時間となると思います。今後も計画をしてほしいと思います。
		2 いじめ、不登校への対策	いじめ・不登校の未然防止100%	○現在、いじめは認知されず、不登校0人である。毎月アンケートを実施し、いじめや悩みを早期に発見し、適切に対応してきた結果であると考え。 ●今後もいじめ・不登校の未然防止、早期発見に努めていく。	3.0	3.1	3.7	3.8		
		3 基本的な生活習慣の徹底	あいさつ・返事・整理整頓の定着率100%	○あいさつや返事、整理整頓の定着に向けて、各学年で発達段階に応じて指導を進めてきた。元気にあいさつできる児童が増えてきた。学校への訪問者や支援学校の先生方にも進んであいさつをする姿が見られる。 ●高学年のあいさつの声がやや小さい。学校、地域、家庭が連携してさらに指導を進めていく。	2.9	2.6	3.4	3.3		
体育	進んで運動したくましい育	1 体育の時間の充実と運動に親しむ態度の育成	体力テストの前年比アップ	●体力テストの結果から、県の課題である「ボール投げ」については、平均値を上回る学年が増えた。また、総合評価Aの児童が、昨年度より増えた。授業で低い項目を強化する運動を取り入れた成果である。 ●運動に親しむ児童を増やすため、体育の時間の運動量の確保と昼休みの外遊びを奨励する。	3.0	3.1	3.7	3.8	3.2	○ 体力アップがすべてのことにつながるので、成果があらわれているはよいことである。 ○ 以前より、東方の子ども達は運動神経がよいと言われていました。基礎体力向上を、免疫カアップをお願いします。 ○ ボール投げで平均値を上回るのはすばらしい。 ○ 体力テストの結果が上昇しているのは、大変いいことだと思います。自分の健康は自分で守るをモットーに今後も体力増進に努めてほしい。 ○ 評価がよい児童が増えたことはよいことだと思います。体力面の向上、健康な体づくりを行うことは学習面でもよいことだと思います。
		2 集団行動の徹底	話を聞く態度の育成 立腰100%	○生徒指導主事・保健主事を中心とした指導を行っている。 ●立腰については、今後も指導を継続していく。	2.9	2.8	/	/		
食育	子どもに健康な心を育	1 家庭や地域との連携による食育の推進	食育チャレンジ週間の各家庭での実施	○教育課程に年間2回の食育チャレンジ週間の実践や給食感謝集会、栄養教諭と連携した栄養指導の授業を設定し、計画的に食に関する意識や感謝の気持ちを高める指導をすることができた。 ●関係機関と連携しながら、地域に根差した食育指導を進めていく。	3.1	3.0	3.7	3.7	3.3	○ 食べることで健康な体を作るので、すべての目標を達成できる第1歩である。 ○ むし歯治療は100%を目指してほしい。 ○ 給食感謝集会の設定がよい。 食に関する意識や感謝を忘れずに毎日を過ごしてほしい。むし歯の治療率が ○ 低すぎると感じます。もっと自分の体を大切にしてほしいと思います。 食事のことに子どもの頃から興味を深めることは大切な事だと思う。
		2 健康保持の生活習慣の定着	むし歯治療率90%	○第1回学校保健委員会では、学校薬剤師の高山先生を講師として招き、「感染症対策」について講話を行った。第2回は立腰の講話を行う予定であったがコロナ感染拡大により残念ながら中止した。 ●虫歯の治療率が42.6%(12月末現在)であるので、今後も必要な家庭に積極的に声掛けしていく。	2.9	2.9	3.7	3.7		
その他	信頼される育	1 家庭との連携と参観日の充実	参観率85% 懇談率75%	○参観率は87%、懇談率は75%であった。本年度は、コロナの影響で心配されたが、保護者の関心が高く、参観率、懇談率ともに数値目標を達成している。 ●参観日の日時や内容の検討、及び職員の地域の行事等への積極的な参加を今後も促していく。	3.3	3.3	3.9	3.3	3.3	○ コロナで集まるのが駄目な状態であり、十分である。 ○ こんな中、参観日に出席してくださる保護者の方は、くれぐれも感染予防に注意していただきたい。 ○ 先生方が努力されているのが見えます。保護者も大変でしょうけど参観率と懇談率が同じになれることを願っています。 ○ コロナ禍であったが、出席率がよかったことについては日頃の学校側の各家庭との関わりがよかったからだと思う。
		2 コンプライアンスの徹底	服務規律の遵守	○年間を通して、定期的にコンプライアンス通信を発行して、様々な事例について研修を行い、意識の継続を図るようにした。また、服務規律の遵守に関する声かけを定期的に行っている。 ●服務規律のさらなる徹底を図り、信頼される学校をめざしていく。	3.5	3.4	/	/		

次年度の方向性についての 校長所見	○ ICTを効果的に使いつつ授業展開を実施した。コロナ対応として体育・音楽などは、動画や鑑賞教材を見せることで疑似体験をさせたり、動画を見せた後に、補充指導をしたりしながら授業内容を消化していった。次年度もこのような指導が必要となる。 ○ 読書指導による働きかけを行い、次年度も読書量アップに心掛ける必要がある。教職員の自己評価が低いので、職員への働きかけを今後とも実施していく必要がある。 ○ 児童の共通理解を全職員、担当職員(ケース会議等)で実施したので、不登校や大きないじめなどに発展することはなかったが、いつも危機感を持ちながら今後とも継続的な指導をしていく必要がある。心のもったあいさつについても、時と場にあった指導をしていく必要がある。 ○ 体力テストの結果分析をしっかりと行いながら、次年度の取り組みを体育の授業や日常における体育活動の中に取り入れていくように今後とも指導していく必要がある。また、立腰指導については、文字を書く時の姿勢と合わせて、継続的に指導していく必要がある。 ○ コロナ感染拡大の影響で、むし歯治療率が伸び悩んだ。文書や個別での家庭指導を行いながら、治療率を上げる努力をしていきたい。次年度は、フッ化物洗口も実施されるので、合わせて保護者への啓発活動を実施していく必要がある。 ○ 信頼される学校づくりとして、今後ともホームページによる情報公開を積極的に行っていきたい。また、職員のコンプライアンスの意識を高める取り組みをしっかりと行い、不祥事を起こさない職場環境づくりを継続して行いたい。
----------------------	--